

発刊によせて

「小田原近代教育史」は、昭和 58 年度に 1822 年（江戸末期）から 1949 年（昭和 24 年）までの教育関係の資料として「小田原近代教育史 資料編」第 1 巻～第 5 巻が刊行され、平成 20 年度に 1945 年（昭和 20 年）から 2000 年（平成 12 年）までの本市の教育についてまとめた教育史年表「小田原近代教育史 戦後年表編」が刊行されました。

前回の発行から 10 年以上が経過し「平成」の時代が終わろうとする中で、この度、2001 年（平成 13 年）から 2018 年（平成 30 年）までの教育についてまとめたものを「小田原近代教育史 戦後年表編 2」として発刊する運びとなりました。発刊に際しては、平成 29・30 年度の 2 年間にわたって、小田原市教育研究所の共同研究事業として「小田原市近代教育史の編纂に関する研究」において、本市の取組だけでなく国や県の教育に関する資料を収集し、編纂しました。

教育を取り巻く環境は、グローバル化、高度情報化の進展、少子・高齢化、価値観の多様化など急激に、そして絶え間なく変化し、未来への見通しが持ちにくくなっています。そのような時代を迎えた今日、本市では、目指す子ども像を「未来を創るたくましい子ども」とし、小田原の豊かな地域資源を生かしながら、子どもたちそれぞれが持つ可能性を最大限に発揮し、社会を自ら創っていくたくましさを身につけるために必要な教育環境の充実に取り組んでいます。

「温故知新」という言葉がありますが、本市が取り組んできた教育を振り返り、見つめ直すことにより、課題が山積する現在の学校教育へ何らかの示唆を得られると期待するものです。そして、本書に示された長年に渡る諸先輩方の教育実践の蓄積を踏まえ、今後も教育的課題やニーズに的確に対応してまいりたいと思います。

最後に、本書の刊行にあたり、編集作業にご尽力いただいた研究員の先生方、資料提供等のご協力をいただいた関係各位に、心より感謝いたします。

令和 2 年 3 月

小田原市教育委員会教育長 栢 沼 行 雄